

## 第33回全教実習教員部 全国学習交流集会 集会アピール

1999年度「理科実験と実習教員問題の解決のためにー『実習助手』制度改革に向けてー最終報告」2004年度版改訂報告に基づいて、現在の実習教員部運動が進められてきました。

5 今まで我々は、その方針に基づき、今まで文部科学省要請を重ねてきました。ただ、実習教員の制度改革には、最終報告以前よりさまざまな意見があり、一つの方向に進もうというものではありませんでした。報告当時からそれに気づいていたものの、方向性が間違っているものではないこともあります。現在まで進んできているのが今の状況です。

10 時代の流れ、情勢変化を踏まえ、現在の全教実習教員部常任委員会がこのままで我々の制度改革が進まない、文部科学省要請の進捗具合等も鑑みて、今まで目を背けていた部分にメスを入れるため、2023年度全教実習教員部定期総会において常任委員会の諮問機関として制度改革検討委員会を立ち上げることに至りました。

15 この立ち上げに至った制度改革検討委員会では、1年目（2024年度）全教実習教員部常任委員会の意向を受け、現在、我々が求めるべき制度改革とは何か、過去（先輩たちが築いて導いてくれていた運動）と未来（今の若い世代の実習教員が求めるもの）の融合をおこなうべく、前に進むための道標となる新たな波をつくるとりくみをしました。

20 ところが、2024年度、文部科学省要請行動において、実習教員は完璧な教員ではないことを示唆する「ニアリーアイコール(≈)」であって、その時々で良いように使われる存在であることが明らかにされました。その裏で主務教諭という職を新たに設け、給与区分や身分格差をつけ、実習教員をさらに都合よく使い勝手のよい職種に押しとどめ、職務職階制の大きな渦に巻き込もうとしています。

現在の教育改变の速さを考えると、制度改革の運動をより加速していく必要があることを、2024年度全教実習教員部定期総会において示したところであります。

25 制度改革検討委員会と常任委員会では、早急に大きな波（実習教員の新たな制度改革の方向性）をつくり、実習教員が教員として働きつづけることができるよう推進して行きます。みなさん、集いあい・語りあい・学びあいましょう。